

第443期富士見市民大学公開講演会

埼玉の偉人～渋沢栄一 のまなざし

講師：井上海氏

平成3年

9月25日(土)

13:30～15:30

鶴瀬西交流セン



開催日：令和3年9月25日(土)

開催時間：午後1時30分～3時30分

会場：鶴瀬コミュニティセンターホール

富士見市民大学の9月25日の公開講演会は、鶴瀬コミュニティセンターホールを会場で、85名の一般参加者を集め加藤副理事長の司会で開催されました。

公開講演会の講師は埼玉県歴史と民族の博物館の井上海先生で、題名は「埼玉の偉人～渋沢栄一のまなざし～」です。



講師 井上海氏



瀬戸理事長

講演会に先立ち瀬戸理事長の挨拶があり、併せて、「埼玉県歴史と民族の博物館にて今年の3月～5月に開催された渋沢栄一氏のパネル展で、責任者として活躍された」との紹介が有りました。

司会からは、{NHKの大河ドラマ『青天を衝け』での時代考証等での活躍した}との紹介も併せてありました。

講演会の最後に、中田鶴瀬公民館長が挨拶され、渋沢栄一氏に関する新しい知見を得た事への謝辞と、参加者に対してコロナ過での参加して頂いた事へのお礼の言葉で締めくくられました。



中田鶴瀬公民館長

講演

内容は次の4部構成で、特別展と連動した講演

1. 渋沢栄一の生涯
2. 渋沢栄一の社会・文化事業
3. 渋沢栄一と日米人形交流事業
4. 渋沢栄一と美術

はじめに
-NHK大河ドラマ特別展
「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」

- 1 渋沢栄一の生涯
- 2 渋沢栄一の社会・文化事業
- 3 渋沢栄一と日米人形交流事業
- 4 渋沢栄一と美術

おわりに



誕生から尊王攘夷運動、一橋家家臣、幕臣となり、パリ万博に随行して渡欧し多大な影響をうけ、明治政府に呼び出され、租税正および改正掛、大蔵少輔を歴任し、第一国立銀行、製紙、倉庫、鉄道、煉瓦、鉄鋼、ホテル等の様々な会社を創設に関わり、その企業数は500社とも600社とも言われている。氏の座右の銘は「順理則裕」である。

2. 社会・文化事業

氏がこの分野で関係した事業や団体は600を超え、起業活動以上に幅広い活動

1) 福祉の分野

- ・現東京都健康長寿医療センターの前身である養育院の設立
- ・資金は松平定信が定めた江戸の貧民救済資金「七分積金」を活用

2) 教育

- ・一橋大学や二松学舎大学、日本女子大学等多数の大学の設立に寄与
- ・埼玉県の学生を支援する「埼玉学生誘掖会」設立と運営に尽力

3) 文化

- ・塙保己一の業績を後世に残すための「恩顧学会」の設立・運営に尽力
- ・旧埼玉会館建設
- ・関東大震災の時の食料調達や炊出し所の開設、掲示板の設置等の活動

4) 文化財保護

- ・西ヶ原二本榎保存活動やグラント将軍植樹活動



3. 日米人形交流事業

氏の活動により、民間の親善活動を国家プロジェクトにし活動全体に多大な貢献

- ・人形交流は、アメリカから約12000体の人形（通称青い目の人形）が届き、日本の各地に渡され、埼玉県も178体が来た。現存数は12体
- ・答礼人形は58体作られ、埼玉県では秩父嶺玉子が制作
- ・人形の現存数は、青い目の人形は約300体、答礼人形が38体を確認

4. 美術

氏は起業家としてのイメージが強く、近年やっと社会文化事業等も関わっていると認識され始めたが、それ以外の分野ではまだまだ知られていない。

しかし、氏の足跡を丹念にたどると、美術の分野のでも多大な足跡が残っている。

これを写真が図版

1) 埼玉県歴史と民族の博物館にある氏の所蔵品

- ・和田栄作氏や北沢楽天氏の自画像と埼玉の画家に自分の自画像を描かせた逸話
- ・氏の私邸の飛鳥山邸は、生活の場の他に個人の迎賓館的な一面も持ち合わせていたので、同郷の橋本雅邦の襖絵・掛軸等を含め多大な美術品が有った事を紹介

2) 埼玉県歴史と民族の博物館以外の活動の足跡

- ・聖徳記念絵画館に奉納された「グラント将軍と御対話」壁画の下図の作成
- ・東宮御慶事奉祝いの東京国立博物館・表慶館建設への助力と絵画等の寄贈
また、震災で多大な被害を受けた表慶館の再建の助力
- ・尊敬する松平定信公のために楽翁公美德顕彰会の実施と寄贈
- ・松平定信の祀った福島県二本松の南湖神社創建と橋本永邦と下村観山の絵を奉納
- ・下村観山のために観山会を作り、彼の創作活動の助力

3) 収集品の行く末

氏の膨大と思われたコレクションが散逸した事は、震災や戦災で焼失したりして失われた物も少なくないが、子どもや孫の相続時等で散逸した物も少なくない。

それは、氏の理念である「自分の財産は公的に還元する」との理念の強かったので、その結果ではないかと推測される。

5. まとめ

氏は、従前では企業や政治や社会貢献等の活動に焦点を当てられていたが、美術の関わりを研究したところ、「彼がどういった視点で文化を見ていたか、新たな交友関係等、従前では分かっていた事が見えてきた」と考えている。

と締めくくられ、そして氏に関する新しい企画展の紹介があった。

質疑応答

Q：多数の人からお金を集めて利益を分配する制度（＝株式会社）は昔から日本でも行われており、渋沢栄一がフランスで学んだことではないのか？

A：渋沢栄一は商人的発想の素地があったが、パリで近代的・組織的に制度として行われていることに気づかされた。と思われる。

Q：大阪紡績が低賃金労働により多額の収益を得ていたとの事であるので、渋沢栄一はどの程度の配当金等を得ていたか？

A：配当金までは調査していないので分からないが、富岡製糸場で渋沢栄一や緒方惇忠がいた時の日記の記載事項には、低賃金の記載はなかった。



アンケート集計結果

受講者数：86人、回収数：59人、回収率：68.6%

満足度

項目	満足	普通	不満足	合計
内容について	43	13	3	59
配布した資料について	37	20	1	58
講師について	43	14	2	59
スタッフの対応について	28	30	0	58
合計	151	77	6	234

参加者の構成

男女比

男	女
27	30

年齢構成

	50歳以下	51～60歳	61～70歳	71歳以上	合計
年齢(人)	1	2	8	46	57
割合(%)	1.8%	3.5%	14.0%	80.7%	100%



瀬戸理事長 井上海先生 中田鶴瀬公民館長



展示構成

プロローグ 原点 血洗島

第1章 転機 一橋家家臣から幕臣へ

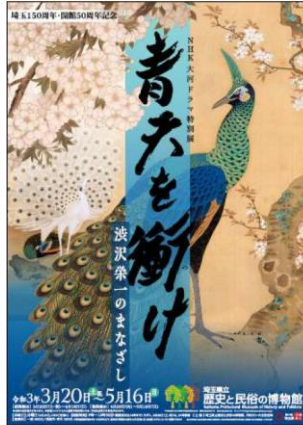
第2章 改革 明治新政府官僚

第3章 経済 資本主義の礎

第4章 社会 社会事業に生きる

第5章 平和 民間外交

エピローグ 遺産 論語と算盤



埼玉県歴史と民族の博物館で開催された浪沢栄一氏のパネル展のプログラム



井上海先生の講演風景

埼玉県歴史と民族の博物館の今後の企画展の紹介

特集展示「浪沢栄一」 ※当館常設展示室第9室にて開催中です

特集展示
浪沢栄一 Part 1 浪沢栄一と日米人形交流事業
会期：令和3年6月15日（火）～8月22日（日）

特集展示
浪沢栄一 Part 2 栄一の師・尾高惇忠ゆかりの美術
会期：令和3年8月24日（火）～10月24日（日）

特集展示
浪沢栄一 Part 3 栄一と惇忠ゆかりの絵画
会期：令和3年10月26日（火）～12月19日（日）